

平成26年9月教育委員会定例会 会議録

平成26年(2014)9月24日(水)午後2時、出雲市教育委員会定例会を庁議室に招集した。

1. 会議に出席した委員

教 育 委 員 長	木 村 保 孝
教育委員(委員長職務代理)	成 相 善 美
教 育 委 員	下 手 泰 子
教 育 委 員	本 田 惠 子
教 育 長	楨 野 信 幸

2. 説明のため会議に出席した者

教 育 部 部 長	打 田 祥 一
教 育 部 次 長	山 田 俊 司
教 育 政 策 課 長	赤 木 亮 一
学 校 教 育 課 長	須 田 英 典
教 育 施 設 課 長	金 山 隆 司
学 校 給 食 課 課 長	木 代 伸 治
出 雲 科 学 館 館 長	渡 部 尚 美
学 校 教 育 課 主 査	松 浦 和 之
学 校 教 育 課 課 長 補 佐	多 々 納 満
学 校 教 育 課 児 童 生 徒 支 援 室 長	武 田 寿 博
子 育 て 支 援 課 長	三 島 武 司

3. 会議の書記

教 育 政 策 課 主 査	和 田 貢
---------------	-------

4. 傍聴者

12名

開会

(木村委員長) 只今から、平成26年9月出雲市教育委員会定例会を開会します。本日の会議はお手元に配付しております日程のとおり行います。

1. 会議録の承認

(木村委員長) それでは会議録の承認に入ります。8月定例会の会議録について、何か意見がありましたでしょうか。

(各教育委員) ありません。

(木村委員長) 特に意見等ありませんので、8月定例会の会議録については承認といたします。

2. 教育長行政報告

(木村委員長) 次に、行政報告について、槇野教育長に報告願います。

(槇野教育長) (以下、報告項目のみ掲載)

(1) 前回以降の動向

- H26. 8. 27 市議会文教厚生委員会協議会
- H26. 8. 27 保幼小連携研修会
- H26. 8. 29 市議会初日 ～9. 26
- H26. 9. 1 市防災訓練
- H26. 9. 2 市議会一般質問 ～9. 4
- H26. 9. 8 科学館運営理事会
- H26. 9. 9 少年の主張出雲市大会
- H26. 9. 10 市議会文教厚生委員会
- H26. 9. 11 定例校長の会議
- H26. 9. 13 出雲ドーム 2000人の吹奏楽
- H26. 9. 16 市議会予算特別委員会 ～9. 17
- H26. 9. 18 市議会決算特別委員会 ～9. 24
- H26. 9. 24 定例教育委員の会議

(2) 今後の予定

- H26. 9. 26 市議会最終日
- H26. 10. 3 管内教育長会研修会
- H26. 10. 12 鈴木章氏（ノーベル賞受賞者）講演会
- H26. 10. 13 出雲駅伝
- H26. 10. 14 県東部地区教育懇話会（松江市）
- H26. 10. 16 中国地区都市教育長会（廿日市市）～10. 17
- H26. 10. 18 県原子力防災訓練
- H26. 10. 19 隣保館まつり

H26. 10. 25 同和教育研究指定発表会（遙堪）

H26. 10. 28 市議会全員協議会

H26. 10. 28 定例教育委員の会議

(3) 9月定例市議会

(1)一般質問

○板倉明弘議員 小中学校周辺・主要通学路への防犯カメラ設置促進について

- ①市内における防犯カメラの設置状況と設置管理者を伺う。
- ②学校周辺での設置状況と設置管理者を伺う。
- ③防犯カメラの運用規定と維持および負担の現状を伺う。
- ④小中学校周辺・主要通学路への防犯カメラ設置促進と経費負担を市教委として取り組むべきと思うが市長の所見を伺う。

全国学力・学習状況調査の結果分析と市教委の指導方針について

- ①本市での学力調査の結果と分析について伺う。
- ②評価或いは反省すべき点があれば伺う。
- ③今後の課題と指導方針を伺う。
- ④児童生徒や小中学校へのアンケート調査結果について伺う。

○井原議員 斐川学校給食センターの移転新築について

- ①学校給食センター第二次再編整備計画の整備方針について
- ②学校給食の整備で、「自校方式」の整備方針も考えられるが、どうか伺う。
- ③学校給食における地産地消の推進について伺う。

○神門議員 安心・安全な学校給食を提供するために

- (1)学校給食における異物混入について
 - ①それぞれの経過
 - ②これまでの対応
 - ③今後の考え方（方向性）
- (2)学校給食の地産地消の推進について
 - ①学校給食地産地消推進ネットワーク会議の協議の内容と結果
 - ②今後の考え方（方向性）

○板倉一郎議員 地域学校運営理事会について

- ①地域学校運営理事会制度の目的について伺う。
- ②地域学校運営理事会制度について、どのように評価（良い点および改善すべき点）をしているのか伺う。
- ③地域学校運営理事会の学校評価の状況について伺う。
- ④地域学校運営理事会は、人事に関することを教育委員会に意見することができるが、その状況について伺う。
- ⑤今後、地域学校運営理事会制度について、どのように考えているのか伺う。

(2)文教厚生常任委員会

- ①第2回学校再編統合推進委員会の開催について
- ②小中学校の問題行動等（4月～7月）について
- ③学校のいじめ問題対策の実施状況について

④平田小学校屋内運動場整備について

(4) 要望受理状況

H26. 8. 28

「光中学校閉校にあたっての要望書」
光中学校閉校記念事業実行委員会

H26. 9. 5

「鵜鷺小学校閉校・鵜鷺幼稚園閉園記念事業に係る費用の助成について」
鵜鷺地区自治協会、鵜鷺小学校閉校・鵜鷺幼稚園閉園記念事業実行委員会

H26. 9. 5

「日御碕小学校及び幼稚園の閉校・閉園に係る記念事業に対する市当局の財政支援
についての緊急要望」
日御碕小学校・幼稚園閉校・閉園記念事業実行委員会

H26. 9. 17

「学力調査結果の学校別公表に関して（申し入れ）」
島根県教職員組合 出雲支部長

(木村委員長) 只今の教育長の行政報告について、質問等がありますか。

(各委員) なし

3. 協議

(木村委員長) それでは、最初に「学力調査の学校別結果の公表について」協議には
います。これまで、7月に市PTA連合会役員との懇談会を、8月には6つのブロッ
クに分けた地域別校長会で、関係者から直接意見を聞いてまいりました。

市PTA連合会役員との懇談会では、「正答率を公開すると、数値ばかりに注目が集
まってしまう。」「学力向上のために学校と家庭とが連携して、それぞれ取り組むべきこ
とがある。家庭での取組について、保護者に気づいてもらうことが大切であり、その意
味で公開は必要である。」「学校批判につながらないような公表のあり方が大切である。」
といった意見がありました。

また、地域別校長会では、「数値結果が公表されると「序列化」などの心配が多いこ
と。」「保護者や理事会に対する説明と、不特定多数に対する公表とは分けて考えるべき
ではないか。」「子どもの現在の学力の状況を知らせ、協力と理解を得ていくためには、
結果公表は必要である。」といった意見がありました。

また、これまでに新日本婦人の会出雲支部・いずもの子どもと教育を考える会・日本
共産党出雲市議団・県教職員組合出雲支部から、いずれも学校別結果公表反対を内容と
する要請・申し入れも受けてきました。

以上の意見を踏まえ、教育委員会協議会において、これまで幾度も議論をしてまいり

ましたが、本日は議論の総括を行い、出雲市教育委員会としての方針を定めたいと思います。

これまでの議論において、学校別平均正答率を示すことについては、保護者そして地域学校運営理事会に対してと、市民全体に対してを分けて考えるという方向で、意見の一致をみていると思います。

まず最初に、校区の保護者そして地域学校運営理事会に学校別平均正答率を示し説明することについて、ご意見をお願いします。委員の皆さん、よろしくお願いします。

(成相委員) 今までずっと協議会を重ねてきて、いろいろと話を聞きましたが、学校の保護者と地域学校運営理事会に平均正答率を説明することについて、非常に大切なことだと思いました。それは自分たちの学校の子どもたちが、どういう正答率で試験結果を得ているかということを知る事が一番大事であって、それを元に学校の先生方も保護者も子どもたちも一緒になってそれに向き合って、自分たちの傾向を見極めながらどのようにしていくかという努力が大事だと思います。学校というのは一番には子どもたちが勉強をしていく場だと思いますが、その中で子どもたちだけではなくて、保護者や先生も一緒になって、一つでも二つでも分からないことをわかるようにしていくというのが大事なことだと思いますので、そういったことにつながっていくようになるために、保護者や校区の地域学校運営理事会のみなさんに平均正答率を示すということは大事だと思います。

(下手委員) 成相委員さんと同じで保護者と地域学校運営理事会の、地域で学校の教育に深く関わってくださっているみなさんに対しては、数値をはっきり示すかどうかは別にしまして、きちんとした形での報告というのは必要だと思います。それから併せて、先日の校長会の中で意見がありましたが、勉強の部分だけではなくて学校というのは他にもいろいろな教育分野で頑張っているものがあるとおっしゃっていましたので、いわゆる「点数」と合わせて学校での活動など、全体的な総体としての学校の姿が分かるような形での公表というのは、決して後ろ向きではなくて前向きにとらえていいのではないかと思います。

(本田委員) 現在学校は、いろいろな問題解決のために、校区の保護者や地域学校運営理事会に状況を説明したり、その3者で情報を共有したりすることで協力と支援を得ています。丁寧な説明は大切ですし、それをすることで保護者や地域のますますの信頼を得ることができ、一層の協力を得ることができます。学校別平均正答率を示して説明することに、私も賛成です。学校は学ぶところ、まず勉強するところです。自分の子どもたちの学びの状況、それからその結果に対しての保護者や地域の関心は高いと思います。学校の先生方は学力テストで学力の今の実態を把握して、毎日の指導や子どもの理解に生かしたりされています。そこに家庭の協力は、欠かせないものだと思います。学力テストと一緒に生活意識調査も行われていますが、基本的な生活習慣が身につけている子どもとか、スマホを長時間しない子ども、それから家での学習時間が長い子どもの学力は高いです。そういった面を家庭で気を付けるということは、必要だったり求められると

思います。その時にただテストの結果が良かった、悪かったですよというだけでなく、学校別平均正答率を示してきちんと説明することが保護者も分かりやすいですし、学校も保護者に協力を得やすいのではないかと思います。

(木村委員長) 私も委員の一人として、意見を述べたいと思います。昨年度、出雲市内の小中学校全体で保護者、地域学校運営理事会に対して学校別平均正答率という数値をきちんと示して説明した学校は、およそ2割程度と聞いています。私は保護者や地域学校運営理事会には、学校の平均正答率など数値をきちんと示して実態を正しく理解してもらって、そして協力を得るべきだと思っています。子どもたちの広い意味での学力を高めていくことは、やはり学校の根幹をなすべきことだと思っています。学力を伸ばすためには、先生方の力によるところが非常に大きいのですが、ただ学校だけでできることではありません。学校と家庭、更には地域とこの3者が一体となって協力しながら、子どもたちの学力向上に努めていかなければいけないものと思います。そういうことで、学力学習状況調査からわかってきたことや、あるいは学校の平均正答率などを含めて、当該学校の保護者に数値をきちんと示しながら説明し理解を得ること、更には地域学校運営理事会にもきちんと数値で報告し説明すること、また更には校長会で各学校の資料をしっかりと検討して他校のいいところを取り入れたり、そして出雲市全体の学力向上につながるような取組が行われることがとても大事だと思います。そういう意味で関係者の間ではきちんと数値を示して理解と協力を得、そして学力学習状況の改善をしていくことが大事だと思います。

(成相委員) こういうことは前向きに考えていかないといけないと思います。後ろ向きに考えると、全然いい形にならないと思います。今日、下手委員もおっしゃいましたが、ぜひみんなの前向きに考えていけるような状況づくりが大事だと思います。

(本田委員) 先ほど委員長がおっしゃった、校長会で情報を共有するということはとても必要なことだと思います。情報の変な流出は心配される場所ですが、校長会ではみんなが情報を共有して、他校の取組のいいところを取り入れてお互いにアドバイスをし合って、みんなで学力向上に取り組んでいくというようになっていただきたいと思います。

(槇野教育長) 私は基本的に、数値を示して課題とその改善方策というものを明らかにしながら全体で取り組んでいくという考え方をしていますので、今は校区の保護者と地域学校運営理事会に対してどうするかという話ですが、保護者は当事者と言っていいと思いますけれども、そういう学校にかかわりの深い人たちには学校としての説明責任が当然あるということで、それは示していかなければいけないだろうと思います。そのことは透明性の確保であったり、それから開かれた学校づくりでもありますので、保護者と地域学校運営理事会に対して結果をオープンにしていくという事はいいことだと思います。また先ほど話が出ていますように、校長会の中で全体の情報を共有しながらお互いにいいところを学ぶとか、あるいは刺激を与えながら共に頑張るということも大

事なことだと思いますのでいいのではないかと思います。校長会の意見の中でも全体へ公表することと校区の中への話は別の話だという意見もありましたので、そういう点からしても保護者と地域学校運営理事会に対してはできるだけオープンな形にしていくということで異論はありません。それで今日はお手元に、保護者と地域学校運営理事会に対しての報告資料のイメージを2種類、参考までに事務局で準備をいたしました。ひとつは正答率の数値をそのまま出すもの、もう一つは県平均あるいは国の平均を100として棒グラフで表す、この二通りを準備しております。私は数値を出す方がいいと思っておりますが、その校区だけとは言え数値が出た時に、それがどのように一人歩きするかという懸念も若干ありますので、結果公表というか結果報告はするとして、あとはどういう形にするのかということ、この二つのパターンで意見を交換していただければと思います。

(木村委員長) 今教育長から二つのパターンについてご提案がありましたが、地域の方々に説明する資料としてどちらがふさわしいかということですが、これについて意見をいただけますか。

(下手委員) この数値が入っている方には、市の平均が入っていないですね。市の平均が入っていた方がいいと思いますが、どうでしょうか。

(成相委員) そうですね。市の平均も入っていた方がいいですね。

(本田委員) 相手は出雲市ではなくて、全県下とか全国だという感じはわかりますが、あった方がいいですね。

(木村委員長) 1番には本校平均と全国平均がありますが、そこに出雲市あるいは島根県の平均も入れることができると思いますし、2番の県の学力調査においても市の平均を入れることは可能だと思います。

(本田委員) ぱっと見てこちら(表)とこちら(グラフ)では、こちら(グラフ)の方が感じが分かりやすい、伝わりやすいです。これでも出雲市の平均は、ここに何かして落とせますよね。

(下手委員) この棒グラフにする場合の、県平均や全国平均を数値で入れることをしておいた方がいいような気がします。

(本田委員) 今言われたように、全国平均とか出雲市の平均を数値として入れるのはいいです。でも各学校の数値はこちら(グラフ)の方が少しぼんやりしているというか、もしこれが変に情報が流出した場合でも、グラフだと細かくはわかりにくいのでこちら(グラフ)の方がいいと思います。

(木村委員長) グラフだと学校の数値と何を比べるか、1番については全国の平均正答率との比較ですし2番だと県との比較ですし、比較の対象が違ってくるので1番と2番を同じ対象として比べにくいところがあると思います。

(本田委員) そういう細かいことは、またいろいろなところで校長先生方とも協議していただくこととして、数値がいいかグラフがいいかという大まかなことは、あるいはそれも校長先生方にお任せするのですか。各学校によって数値ですとかグラフですとか、ある程度任せるのですか。

(木村委員長) 私は個人的には、保護者と地域学校運営理事会に対しては数値できちんと説明した方がはつきりしていると思います。学校の数値はもちろんです、出雲市全体の数値を示したり県の数値を示すことによって、島根県、出雲市あるいは学校がどういう状況に置かれているのか分かりますし、数値としてあるものはきちんと出した方が分かりやすいという気がします。これは私の考えですが、いかがでしょうか。

(下手委員) 保護者の方や地域学校運営理事会に数値を示すということですが、私自身は協議会の時には数値を出してしまうことに非常に疑念を持っているという話をしたと思いますが、でも改めて考えてみますと私自身が保護者であったわけですし、地域学校運営理事会の方たちは深く学校の運営に携わっていらっしゃることを考える時に、やはり信頼して数値を見ていただくという姿勢は非常に大切だと思いますし、そういうところで信頼関係や協力というものが得られていくのではないかと思います。少なくとも保護者や地域学校運営理事会の皆様に対しては、そういう信頼を持って数値を公表するという事はいいのではないかと、協議会からは私自身の意見は変わってまいりました。

(成相委員) 私も、数値はしっかりと公表した方がいいと思います。地域と保護者に対してはしっかりと数値を出して行って、それで実態をわかっているながらみんなを取り組んでいくという姿勢がいいのではないかと思います。

(本田委員) 私は、全国や島根や出雲市の数値はきちんと示すべきだと思います。自分の学校の数値をきちんと、小数点まで出すというようなことはこだわっていません。ぱっと見て分かりやすいのは、このグラフだと思います。先ほど申し上げたように、情報の変な流出を考えますと、こちら(グラフ)の方が細かくはわかりにくい面もあって、いいところもあると思っております。

(槇野教育長) 数値を出せばもうそれ以上のものはありませんし、基本的に私は数値で出していくべきものという考え方ですので、特に保護者、それから地域学校運営理事会に対してはそのものズバリをお示しして、分析結果をしっかりと伝えて、「学校としてはこういう改善策を取っていきます、家庭・保護者ではこういう協力をお願いします、地域ではこういうことをお願いします」ということを示していくということではないかと思います。

(木村委員長) 本田委員、よろしいですか。

(本田委員) はい。

(木村委員長) それでは皆さんの意見をまとめますと、当該学校の保護者、それから地域学校運営理事会に対しては、学校別平均正答率をきちんと示して説明する必要があるということになろうと思います。またその説明は学校から行っていただくこととなりますが、説明資料については今後学校と教育委員会で十分に検討いただいて、より良い分かりやすいものにしていただきたいと思います。また校長会においては、各学校の資料を基に分析状況やこれからの取組などについて協議をしていただく必要があると思いますので、十分に相談いただいて進めていただきたいと思います。

それでは次に、市全体へ学校別平均正答率を公表することについてのご意見を伺います。

(槇野教育長) 先ほども申し上げましたが私は基本的に、数値を全体に対しても公表していくべきものという考え方でおります。理由としましては説明責任ということが一般的には言われていますが、先ほどの一番関わりの強い保護者、あるいは地域学校運営理事会に対しての説明責任は先ほどの話で果たされるということになりますけれど、一方で行政としては納税者の方々への説明責任があるわけですし、一般に対する説明責任という立場から全体に対しても同様に公表していくべきものという考え方を持っています。そのことが一つ根底にあります。それよりも出雲市として学力向上にしっかり取り組んでいくという意思表示にもなりますので、そういうことを強く公にすることによって併せて責任も果たしていきたいということです。それをするによって必要な予算の確保をするとか、学校に対する支援を行っていくということに繋がってきたいと思っています。それから併せまして学校間で、あるいは学校ごとの保護者の皆さんが他校の取組を知ることによって、やはり違った価値観や考え方に対する刺激もありますし、ある程度の競争というものがないと向上していかないという考え方もありますので、切磋琢磨するという意識も少しは持ちながら市全体で取り組んでいくということにおいても全体の様子、状況が判るといふ形にした方が最もいいのではないかと考えて持っています。もちろん校長会では情報の共有をして学校長をトップとしてそれぞれの学校で取組はされると思いますが、それ以上にもっともっと情報共有を進めて一歩踏み込んだ取組をしていただければ一番いいと思います。

(成相委員) 私も数値で公表するのが一番だと思っていますが、しかしながら今まで校長会や教育委員会協議会で何回も話し合ってきましたが、いきなり数値を出すのはどうかという意見もあつたり、その中で反対の意味で想定される部分が何件かありましたので、段階を追って将来的には全てを公表するような形にできるように、徐々に進めていけばいいのではないかと思います。何回も言うようですがこれは前向きに取り組んでいかなければ、こうなったらどうしようかななどとマイナス発想でやっていくと絶対いい

ことにはならないと思いますので、やはり前向きに前向きにみんなで考えていって、年々いい形、学力向上になっていくように考えていかなければいけないと思っていますので、段階を追って最終的には数値ですべて公表できるようになればいいと思います。

(下手委員) 保護者と地域学校運営理事会に数値を公表するわけですから、私自身も委員として本来ならば併せて市全体に何らかの形で公表していくべきものと思っておりましたが、ただ数値を出すというのはちょっと迷うところでしたし、グラフでもある程度、心配されている序列化とか、校長会などでもたくさんのこういうことに対する懸念についてお話しいただきましたし、それをすべて大丈夫と思うには話し合う時間が短かったものですから、この市に公表することに対しては数値あるいはグラフの公表については今回はもう少し先延ばしにして、いろいろなところで話し合う時間を設けて本当にそれが子どもたちのためになるのか、市の教育全般を上げていくことになるのかということについてよく話し合っ、また期間をおいて決めていく方がいいのではないかと思います。

(本田委員) 私も今年すぐに市全体へ学校別平均正答率を、数値でもグラフでも公表することは反対です。市全体へは、出雲市の結果の公表でいいと思っています。すごく結果の悪かった学校や地域は嫌だと思っていますので、配慮が必要だと思います。毎年順位は変わるとは思っていますが、序列化に繋がるおそれもあります。また市全体への公表が子ども一人ひとりの学力向上に繋がるのかというと、繋がらないという気がします。学力の向上ではなくて、学力テスト対策の過熱化を招く心配もしています。ですが上位何校かの発表をして、頑張りを讃えるのもいいと思っています。

(木村委員長) 私も委員の一人として述べたいと思いますが、このことについては学校の平均正答率を市全体にと言いながら、どちらかというとな不定多数の方々に公表することになりますので、現段階では数値を公表することについては反対です。学校の平均正答率は子どもたちの学力を高めるために協力を願う方々、即ち学校の先生方と保護者、校区内の関係者で共有してまずこの辺りから取り組んでほしいと思います。今までそれができていない状況の中で、まずこれをやっていただくのが非常に格段の取組だと私は思います。不定多数の方々に数値を公表することについては、私は学校の先生方のことを考えると、先生方が指導方法の改善とかそういう方向に向かってほしいのですが、数値を出すことによって短期的にテストの点を取らせるとかそういう指導に向いてしまうのではないかという懸念があります。学力向上というのは、やはり短期的にすぐできるという話ではなくて、中長期的に子どもたちの経年変化を見ながら進めていかなければいけないと思います。そういう中で、学力は徐々に向上していくものだと思います。また数値を公表することについては、校長先生方と教育委員会は十分な共通理解がまだ図られていないという状況です。そういう中で、実際に子どもたちの指導に当たっていただくのは現場の先生方ですから、先生方の思いももちろんあるのですが、やはり教育委員会と学校は共通理解を持って進める必要があると思います。そういうことをきちんとやった上で、初めて効果的な指導ができるのではないかと思います。教育

長の思いもわかりますが、市として説明責任を果たすとか、方向性を示すとかあるいは予算的確保というのはわかりますが、ただ学校の平均正答率を出さなくても出雲市全体の数値を示したりあるいは分布状況を示すことによって、出雲市全体の子どもたちが今どういう状況にあるのかということをも十分説明ができると思いますし、そういったことから予算の確保をお願いしたいと思います。先ほど「段階的に」というお話がありましたが私も段階的にという方向でいいと思っていますが、やはりまずは直接関わりあう方々にその状況をきちんと示して、そしてそこからしっかりとした協力をいただいて子どもたちの学力向上を進めていってほしいと思います。ただ先ほどの地域へ示すような資料ですが、数値を除いた部分で分析結果とかあるいは改善策とか各学校のものが出てきますので、これは十分市民の皆さん方に見てもらっていいと思います。どこの学校がどういう分析をしてこれからどういう進め方をするのかといったことについては、数値を除いた部分では十分に説明責任になり得ると思います。私は以上のように考えています。

(槇野教育長) それぞれお考えを聞かせていただきましたが、数字の一人歩きというようなことの懸念とかいろいろあるとは思いますが、この調査の結果が学力のすべてではないということは当然ご承知のとおりなのですが、一部ではあっても学力の調査結果として数値が出ている以上、当然学校にその数値に対する責任があるわけですので、そこでいろいろな理屈をつけて数値を出さない、あるいは隠すというようなことになるのではなくて、すべてオープンにしていくべきものであると思っています。先ほども申しましたがやはり井の中の蛙であってはなりませんので、他のところの情報も誰もが見られる状態にして、適度な競争を行っていくべきという考え方を持っています。それからもう一つは、保護者そして地域学校運営理事会には数値を出すということで先ほど意見の一致を見たところですが、それは学校から保護者あるいは地域学校運営理事会へ渡った時点で、その情報というのはどういうふうに流れていくのかわからないわけです。ですから校区内とは言えそういう情報を数値で出すということならば、全体に数値で出すことについてほとんど変わりはないのではないかと思います。つまり校区内に数値を出すのであればそれは市全体へ数値を出すのと同じか、かなりそれに近い意味を持つという点からして、全体に公表してもいいのではないかと思います。それが私の考えです。

(本田委員) 保護者や地区に数値を示して説明するのは、地域や保護者に協力や支援をお願いするという理由があります。学校の説明責任と併せて、そういう大きな理由があるからです。しかし市全体への公表というのは、説明責任プラス何かということはまだ弱いと思います。それでまだ早い、みんなの気持ちや考えが進んでいないと思います。

(成相委員) 教育長のご意見もよくわかりますが、本田委員がおっしゃったように今まで総合的に校長会やPTAの役員や教育委員会協議会で話をした中では、全体に公表するのは私もまだちょっと早いと思います。私の考えではもう少しやってみて、理解を得られてから後々公表していけるようなになればいいと思います。そこに携わっている人た

ちの意見も大分聞いたような気がします、もう少しいろいろな人たちがもつともつとみんな協力してやるというような姿勢が大事ではないかと思います。

(下手委員) 教育長がおっしゃった意味はおそらく、出雲の子どもたちを自分の地域の子どもたちだけ見ていくということではなくて、オール出雲として全体としてみんなに頑張ってもらいたいという気持ちからの数値の公表というようにおっしゃっている意味合いだと思って、そのことは私自身もよくわかります。ただ確かにこれまでいろいろな方の意見を聞いた時に、非常にいろいろな懸念をされてきました。子どもの地域の格差が生まれるのではないか、それで校区が選ばれるのではないか、あるいは先生自身の個人的な批判になるのではないかといった、本当に確かにあり得るようないろいろな懸念を聞きました。ですからそこが少しどうなのかとはっきりわかるころまでは、数値の公表というのはなかなか難しいのではないかと思います。ただいろいろな意見の中で数値を出せば数値だけに目がいくという意見は本当にたくさんの方がおっしゃいましたが、私自身は本当にそうでしょうかと思います。子どものことを考えた時に本当にこの数値だけを目にして地域や学校や子どもたちを判断するのでしょうか、そのあたりは疑問に思っております。私自身も保護者だったとして数値だけを見て自分の子や地域の子や出雲の子をそう思うだろうか、そうではないと思いますので今後の方向性としては少し前向きに議論をしていきたいと思っています。

(本田委員) まだ出雲市全体として見た場合には、数値を出された場合にそれを受け止める素地ができていないと思います。物事には段階があつてまず足元から、校区から地域から学力向上に向けての気持ちをみんなを高めて、その小さな集まりが集まったの市です。一度に大きなところから始めると、小さなところ、まだ弱い気持ち、弱い取組の所は崩れていく恐れがあります。一つひとつの小さな取組をしっかりと堅実なものとして、その集まりの出雲市、そうなった時に数値を投げかけてもそれを受け止める素地はできていると思いますが、まだ今年はその段階にはないと思います。

(槇野教育長) 今おっしゃった素地というのは、市民ですか。

(本田委員) 市民です。やはり数字の一人歩きというのは、あると思います。それで、心配なのは最下位のところです。最下位や本当に悪いところは、すごく嫌でショックで自信を無くす、そんなことであつてはいけないと思います。でも地域でみんなで行き詰って頑張っている地域になっていけば、また次へ学力向上に取り組むというような気持ちを維持できると思いますが、出雲市全体で数値を出されて、自分のところは最下位だったとか最下位から2番目だったとか来年も大したことはないというようなことになると、その地域の自信も失われていくような懸念があります。

(槇野教育長) 地域の受け止め方の影響というご心配だと思いますが、それは公表してみなければわからないということもありますし、はたしてこのまま例えば段階的に、あるいは公表しないで素地ができるのかといえ、おそらく変わらない、できないと思

ます。それで数値を出せばもうそれ以上のことはありませんので、1回出せば当然そのことに対してどうしていくべきかということで皆さんいろいろと考えられますし、素地ということで言えばその方が素地ができるのは早いのではないかと思います。それでどこまでの配慮が必要かということになりますが、少なくとも学校あるいは教員というのは教育のプロですから、当然出たことに対する責任を負っていかなければいけませんし、いろいろな状況に併せながら最善の努力をして、学力向上にいかに取り組んでいくのかということではないかと思います。結果が一人歩きするというご心配もごもっともなところではありますが、必ずしも学力調査の結果がすべてだということではないということでも誰もがそういう認識は持っています。ただ一人歩きするかもしれないという懸念はわかりますが、これが学力の一部であるということであれば、なおさら学校はもっと自信を持って正々堂々としていければいい、そうあるべきだということに思っています。

(木村委員長) 私も、教育長の言われることは良くわかります。やはりある程度、学校が子どもたちの指導に責任を持つということはとても大事なことだと思いますが、ただ先ほどから言っていますのは、子どもたちの平均正答率というか学校の平均正答率ですが、先ほどの資料を各学校が整理してそして校長会等でそれを十分に分析・検討することとはそこで大きな進展がなされると思います。そこから更にそれを一般の方々に数値を出すということについては、私はそれは子どもたちのためになることかどうか非常に疑問に思うところです。ただゆくゆくはそういう形ですべて公表できるような素地ができればいいと思いますが、まずは学校を中心にしながらきちんと責任を持って指導していただけたらと思うところですし、それからもう一つは1回公表して何か問題があったら引き返しましょうというのは私は教育ではないと思います。やはり子どもたちのことを思うのなら、まずはきちんとそういった素地を固めながら一步一步進めていくのが教育だと思いますし、現段階でこれをすぐに表に出すということについては、他の委員のみなさんと同じで私も段階を踏んでいけたらいいと思っています。

(本田委員) 1回出したものは引っ込められませんので、慎重に慎重にすべきだと思います。

(槇野教育長) 私は、例えば出して大きな弊害があった、問題が生じたということがあれば当然やめることも選択肢にあると思いますし、1回やったから引き返せないということではなくて、常に見直しをしていけばいいのではないかという考え方でいます。

(木村委員長) 大分いろいろ議論をしていただきましたし、皆さん方の考えも大体わかったところですが、段階的ということや、あるいはきちんと数値を表に出して市全体として取り組むという教育長の考えもわかりますし、この学校別平均正答率を市全体へ公表するというについては、いろいろな意見があって現段階ではまとまっていないというのが現状です。ついてはこの件に関しては今年度は今までどおり、数値は公表しないということで、そして来年度以降については引き続きこの教育委員会で検討していきたいと思いますがいかがでしょうか。

(槇野教育長) 教育委員会の事務局と致しましては、先送りということではなくて何らかの形で整理をしたいと考えております。段階的という話も複数出ていますし、私も他の委員のおっしゃることが全く分からないということではありませんので、たくさんの懸念、心配の声があるのも事実ということですが、それは十分承知した上でもう一つの形で考え方を示したいと思います。今お手元にあるサンプルの学年・教科ごとの分析結果と改善策、それから教育委員会としての改善策、それから学習状況調査の結果の中の、分析結果と課題、そして家庭・学校・教育委員会が学習状況の結果の改善に向けた取組、このこと自体は全体に示しても何の問題もない内容ですので、これを出すことによって市民のどなたも各学校の取組が文書でわかるし、それぞれの学校も他校の取組を知ることができるということですので、ここを出すことについては多分どなたも異論はないのではないかと思います。それで問題となっています数値あるいはグラフの部分をできましたら文章表現で結果の概要という形で各学校に記載していただくという方向が取れないかと思います。特徴的な点を数値で何点とか何%という示し方ではなくて、例えばその学校では国語のAは平均を大幅に上回っていたけど、算数のBは大幅に下回っていたとか特徴的な全体的な概況として、要はグラフと数値の表を文章で伝わるような方向でも出してこれを全体に公表するという形を取らせていただけないか、そういう整理を付けさせていただけないかという思いです。そういった形をとることによって、どういう効果があったのかとか、どういう点が課題であってまだ不足だとか、そういうことを検証しながら今後の公表のあり方というのは引き続き検討することではないかと思いますが、せめてそういう形での全体への状況の公表をしながら、その情報を誰もが共有しながら取り組めるという環境を整えていただければと思います。以上、提案させていただきます。

(木村委員長) ちょっとその前段で整理していきたいと思いますが、今年度は市全体、一般市民へは数値を公表しないということによろしいですか。

(各委員) はい。

(木村委員長) という結論で、次は先ほど教育長から提案がありましたが、私も2番目の分析結果と改善策等については、もう表に出して差支えないと思います。ただ教育長のお話では1番の数値部分を文章表現にして、大幅に下回っているとか言葉で表現して示したらどうかという提案だと思いますが、皆さん方のご意見はどうでしょうか。

(成相委員) 文章であれば結果的に数値が出ないわけですから、学校の序列化とかそういうことにはつながってこないことですので、一番最初に懸念していたことがそのことでしたがそれがいいということですので私はいいと思います。

(下手委員) おっしゃったような多少のこの辺りの説明がありませんと、せっかくこの学力調査結果の分析と改善策という資料を出しましても説得力がないと思いますので、

ある程度の文章表現をしていただくというのは大切なことだと思いますし、併せてこのあとの部分の学習状況調査でかなり詳しいアンケートが取られておりましたので、その辺りも詳しい学校の状況あるいは説明を記載していただくと市民の皆様幅広く子どもたちの状況がわかって頂けるのではないかと思います。

(本田委員) 私も、記述式ならいいと思います。数値やグラフでの公表だと個人が特定されるといけないというようなことから、少人数や複式学級の所は公表しないということになるかと思いますが、記述式だと出雲市全部の学校が学力向上に向けて取り組む方策が示せていいと思います。

(木村委員長) 私もそういった形であれば、表に出せると思います。実際にその状況を文章で表現しながら、そして打つべき改善策を示すということですが、ただあまりにも人数が少ない、一人二人の学校についてこれが出せるかどうかはまた検討していただく必要がありますが、今のような形であれば小規模校は出せないというわけではなくて、ほとんどの学校が出せると思いますし、きちんと整理ができていくのではないかと思います。

(木村委員長) それでは教育長から提案がありましたが、調査結果の部分を記述方式ならいいということで委員の皆さんの合意ができたのではないかと思います。そういう形式で進めていくこととしたいと思いますが、この形式については十分ご検討いただければと思います。

そうしますとこれからの結果の分析や改善策、資料の取扱いや整理ですが、今後のスケジュールについて教育長お願いします。

(槇野教育長) 今日の定例の会議の中で方針を出すということでこれまで動いてまいりましたので、今日のこの結果を受けましてできるだけ速やかに臨時の校長会を開催したいと思います。校長会で今日の決定事項を説明してまた意見もいただいて、その中で今イメージとしてこういう書式は出していますがこの書式をまず確定させるということをしなければなりませんし、その後それぞれの学校と教育委員会での資料の作成作業を行います。各校で分析はかなりやっていますのでそんなに時間はかからないのではないかと考えていますが、資料の作成を行ってそれから保護者、地域学校運営理事会への報告と、市全体への公表はできれば11月いっぱいのところでは実施したいと思っています。校長会での説明の時にどういったやり取りになるかということはあると思いますが、大体そういったスケジュールで、できるだけ早めにやりたいと思っています。

(木村委員長) 他の委員の皆さん、何かありますか。

(成相委員) 今回こうやって学力向上のための話し合いを行ってきましたが、保護者や地域学校運営理事会に報告するだけでも、来年度の学力調査の結果というのはかなり期待できるのではないかと考えています。こうして何回か話し合ってきて、校長先生の話

を聞いたり P T A の方の話を聞いたりすることが非常に良かったと思いました。必ず子どもたちの学力向上について、出雲の子どもたちのためになると思ってやってきましたのでいい結果が出ることを期待しています。

(木村委員長) それでは以上で学力調査の学校別結果の公表について、協議を終わります。ここで 15 分ほど休憩を取ります。

(休憩)

4. 議事

(木村委員長) それでは再開します。4 番の議事に入ります。「議第 33 号出雲市立学校再編統合に係る指定制服等購入費補助金交付要綱」を、教育部 山田次長 に説明願います。

(山田次長) 資料に基づき説明。

(木村委員長) 只今の、議第 33 号について、何か質疑等はありませんか。

(各教育委員) なし。

(木村委員長) 特に質疑等がないようですので、議第 33 号について、承認してよろしいですか。

(各教育委員) 異議なし。

(木村委員長) ご異議ありませんので、議第 33 号については承認します。

(木村委員長) 次に、「議第 34 号出雲市立学校における地域学校運営理事会理事の辞任及び任命について」を、学校教育課 須田課長 に説明願います。

(須田課長) 資料に基づき説明。

(木村委員長) 只今の、議第 34 号について、何か質疑等はありませんか。

(各教育委員) なし。

(木村委員長) 特に質疑等がないようですので、議第 34 号について、承認してよろしいですか。

(各教育委員) 異議なし。

(木村委員長) ご異議ありませんので、議第34号については承認します。

5. 報告

(木村委員長) 次に、報告事項に入ります。まず報告(1)「平成26年度(4月～7月)出雲市立小・中学校における問題行動等について」、学校教育課 須田課長 に説明願います。

(須田課長) 資料に基づき説明。

(木村委員長) 只今の、報告(1)について、何か質問等はありませんか。

(成相委員) 問題行動がいろいろありますが、こういった行動を起こした子どもたちのフォローはきちんとできていますか。それから不登校の子どもたちは中学校を卒業してしまったら義務教育でなくなってしまうのですが、この子どもたちがこれから先、高校生になった時どういう状態になっているのかが心配です。そのあたりどうでしょうか。

(須田課長) まず問題行動についての各学校の対応ということですが、毎月各学校から問題行動の報告を受けております。その個別について状況を教育委員会として把握しておりますが、それぞれ一つひとつの事案につきまして該当児童生徒に対する指導はもちろんです。保護者を含めた指導あるいは学級全体・学校全体等への指導も適宜行われているところです。また加えて警察等との連携を図った指導も適切に行われているということで教育委員会は状況を把握しているところです。

(武田室長) 不登校傾向の子どもたちが中学校を卒業した後ですが、市のシステムとしては子ども若者支援センターという組織がありまして、そちらの方に義務教育を修了した子どもたちが相談するケースもあります。市としては、そういう窓口を用意しています。

それから適応指導教室を出た子どもたちが、例えば卒業生が学校に挨拶に来るのと同じように、適応指導教室へ帰ってくることもありまして、何らかの関わりを継続するような機会は全くないわけではないという状況です。

(木村委員長) 不登校の子どもたちは高校受験に関しては、休んだ理由とか休みの数とかいうものは合否の対象にはしないということです。だから休みがあっても高校入試をクリアして合格ラインにあれば、合格を出しています。ただその子どもたちが高校に合格して学校に出てくることができるのはそう多くはないですが、中には環境が変わって

続けていく子もいます。ただ高校に入らずずっと休むということについては、通信教育があるのでそういったところに転校して通信教育を受けながら高校を卒業していくということもあります。だからいろいろな方向が考えられますが、それをきちんとフォローしていくということは、どこかの学校に籍を置いていけばできますが、学校から離れるとフォローがしにくい状況にはあると思います。

(成相委員) 毎年不登校の子どもたちがいて、累計するとかなりの子どもたちがそういう状況だと思います。少しでもそういったところを充実できるように、支援していくことがとても大事だと思います。不登校の子どもたちがもっともっと減ってほしいと思っていますが、その子たちがちゃんと充実していけるようなシステムがうまくできていけばと思います。私は数値を見るだけで、何かできることはないかと思ったりしていますが、長期的に時間をかけていかなければいけないこともたくさんあるでしょうし、何かできないかとも思っています。

(本田委員) 感想ですが、最近の報道で中3の時に不登校だった子どもがニートになる確率が2割弱という数値を先日目にしたところでして、2割弱と見るのか2割もと見るのか、反面8割の人はきちんと社会に出ていると見るのかということではありますが、2割というのは本人にとってもご家族にとっても大変なことだと思います。

(成相委員) そうですね。うちの社員の中でもそういう感じになった子が、頑張ればがんばれとちょっと声を掛けて励まして、ちゃんと社員としてやっている子もいます。だからそういうことに繋がっていくようなことができればいいと思います。きっかけ作りが、学校にいる間にできないのかと思います。

(下手委員) 相談員をしている人に聞いたのですが、家族の方は自分の育て方が悪かったからこうなったのかとすごく自分の責任とっていらっしゃる方が多いようでして、そのあたりのご家族の方に対する相談窓口というものもあればいいと思います。

(成相委員) 保護者も相談に行けないのですね。学校にいる間に何とか声を掛けて、子どもたちが行けるようになるといいですが、義務教育の間に解決できる方法をぜひ考えていきたいと思います。

(須田課長) 先ほどいただいたご意見についてですが、子どもたちの人間関係を作っていく力というのが、集団の中で学習していく上で非常に大切な力になってきます。そういった中で教育委員会としても直接的でないにしても、例えば保育園・幼稚園の時代から小・中と引き続いた教育の中で何を大切にしていくのかという取組、そしてそれはやはり不登校という問題が起こるまでのところで子どもたち自身にどういう力をつけていくのかということや学級の集団の中で、そして子どもたち一人ひとりに指導の中で力を育てていくということ、それからもう1点ありました家庭に対しての支援ということに関しては、スクールソーシャルワーカーの活用によってその子自身もそうですが家庭

環境のところで相談をしたり、いろいろ関係をつないだりそういった関わりも教育委員会としては支援を行っているところですので、学校に対してそういう活用をより図っていただくというところは、今後も更に周知を図っていく必要があると思っています。

(木村委員長) 他のところですが、15歳にネットトラブルというのがありますが、今年度14件出てきているということですが、なんとなくこの部分が増えてきていると思われるのですが、これも指導がなかなか難しいにしても、教育委員会や学校でいろいろ対応はしていただいているとは思いますが、更なる対応をお願いしたいと思います。本来は家庭できちんと指導すべきだとは思いますが、組織的な対応ができればと思います。

(武田室長) 市として取り組んでおりますのは、教職員への研修を8月18日に開催いたしまして先日報道でも取り上げていただいたとおりです。市内のすべての小中学校の教員を集めまして専門の方の講演を聞きました。都市部の方ではネットの関係のアプリでのやり取りの件数は少なくなりつつありますが、島根県はまだ続いているということです。トラブルに辟易している学生も増えている、という講師の発言もありました。今度、家庭と教員と一緒にした研修を、12月20日に予定しています。申し忘れましたが、8月7日には中学生の生徒会代表者を集めての研修会も実施しておりますことを併せて報告させていただきます。

(木村委員長) 次に、報告(2)「学校のいじめ問題対策の実施状況について」、学校教育課 須田課長 に説明願います。

(須田課長) 資料に基づき説明。

(木村委員長) 只今の、報告(2)について、何か質問等はありませんか。

(各教育委員) なし。

(木村委員長) 次に、報告(3)「市立幼稚園の認定こども園化に向けた方針について」、子育て支援課 三島課長 に説明願います。

(三島課長) 資料に基づき説明。

(木村委員長) 只今の、報告(3)について、何か質問等はありませんか。

(下手委員) 認定子ども園について大変分かりやすくご説明をいただきましたが、現在幼稚園にお子さんがいらっしゃるわけですし、急にそこで制度が変わるわけですが、保護者からは特にご意見はありませんか。

(三島課長) このことにつきましては、明後日の議会終了後のその日に保護者会を開い

ていただいて、保護者の方と具体的にお話をしていく考えています。保護者から強い反対があれば無理押しをすることはないということで、あくまで地元や保護者のご意見を最優先しながら進めていきたいと考えております。

(成相委員) 多伎幼稚園の場合ですが、これからほかの幼稚園もこのようになる可能性があるということですね。それで例えば保育園にあるような延長保育とかをした場合に、周りの保育園からクレームがあるということはあるのですか。

(三島課長) 今回の認定子ども園化ということは、いわゆる民営化ということになってまいります。手続の上では幼稚園が一旦閉園して、そこに新たに認定子ども園ができるということで、あくまで民営ということですので具体的に私立の認可保育所からクレームがつくことはないと思っております。ただ現在多伎幼稚園については入園希望者がゼロ人であったという急激な環境の変化が起こっておりますので、それによってこの園は検討しておりますが、他の園について具体的にどう考えていくのかにつきましては、現段階では未定ということで今後話を詰めていきたいと考えております。

6. その他

(木村委員長) 他にありませんか。次に、「その他」に入ります。 教育委員会の後援・共催事業について、教育政策課 赤木課長 に説明をお願いします。

(赤木課長) 資料に基づき説明。

(木村委員長) 只今の報告について、質問等はありませんか。

(各教育委員) なし。

(木村委員長) その他、委員の皆さま、あるいは事務局の方で、何かございますか。

(成相委員) たまたま知り合いとの話の中で、学校の先生方のお詫びの仕方というか、話としては小学校4年生の子どもが映画の「はやぶさ」を見せられて、その子が映画を見ても何のことかわからなくて、感想文を書けと言われても書けなかったらしいです。お母さんが何かあったでしょうと言っても、難しくてわからなかったということで、そのまま「難しくてわかりませんでした」と書いたそうです。そうしたらクラスで先生が「〇君はこんな作文を書きました」と、自分たちが小学校の時はよくあったことで別に思いませんが、親が頭にきて校長先生に会いに行ったら校長先生が我々より年下なんですけど、「ふんふん、ふんふん、ふーん。」というような聞き方で、それを聞いてまた父親は「ふんふんはないだろう。」と、まずそういうことがあったという事実を受け止めてお詫びするとかどういふふうにするとか話さなければいけないだろうということ

で怒って帰ったようです。たまたまその話を聞いて、我々食品業界は大変ご迷惑を掛けましたと頭を下げたりしますが、学校の先生は何かクレームがあった時にちゃんと頭を下げたりはされないのかと思ったりしたところです。頭下げるべき時は下げなきゃいけないと思いますし、誠心誠意という言葉がありますが「申しわけなかったですね」と一言添えて頭を下げられたら気分を悪くされずに済んだと思います。余計に腹を立てられたということです。気持ちを込めてお詫びするとか、感謝する時には感謝するとか、そういうことは必要ではないかと思ったり、先生方ってそういうことはどこで勉強しておられるのかと、ふと思ったところです。

(木村委員長) 返答がありますか。

(須田課長) 今ご指摘いただいたことについては、学校が保護者あるいは地域の皆さんと信頼関係を築いていく上で、非常に大切な本当に基本となることです。実際にお会いしてお話をしたり聞いたりする機会はもちろんですが、姿が見えない電話対応というのも何気なく言った一言が顔が見えないために意図していないような受けとめをされて、その言葉が元ですぐに解決できることが少し時間がかかるとかという事案もあり、そういったことについては校長会を通して管理職の方へ、信頼関係回復に向けた指導は行ってきたところです。中心的には毎日の業務の中で管理職とか、あるいは規模が大きくなりますと学年の主任等と、職場の中での指導が中心となります。接遇の研修等もありますがこれは毎年学校の教員対象ということはありませんので、例えば初任者等に対しての接遇研修は予定されていますが、中心的にはそれぞれの職場の中で役割を持った者が指導をしていくということになろうかと思えます。学校もやはり非常に大切なところですので、教育委員会としても引き続き管理職を通して話をしたり指導をしていくことが中心になりますが、機会ごとに指導をしていきたいと思っております。

(成相委員) ちょっとしたことでも足を引っ張るようなことになってもいけませんし、やはり人は気持ちで動いていますので、親は親で大事な子どもを学校に預けていますのでそういうことを言っていました。どちらも感情に走ってしまったらどうしようもありませんが、早いうちに受けとめて直ぐにお詫びするところはお詫びしたり、直すところは直して対応することが一番大事ではないかと思えます。よろしくお願いします。

(木村委員長) よろしいですか。では次期教育委員会の日程ですが、10月28日(火)午後2時から市民応接室で開催いたします。以上をもちまして、教育委員会9月定例会を閉会します。

(16:15) 定例教育委員会閉会